

重層的・包括的支援体制の構築に係る 進捗状況（社会参加に向けた支援）について

令和6年3月29日（金）

保健福祉局 健康福祉部 地域福祉課

福祉まるごとサポートセンターの相談受付状況(4か月間_R5.10~R6.1)

- 開設後4か月の延べ相談受付件数は、**1,194件**（1日あたり平均12.6件）
- 新規相談者数（実人数）は、4か月合計で**433人**
- 新規相談のうち、**284人（約65%）**が、公的制度の案内や専門機関への繋ぎなど**相談月内で完結**
一方、課題解決に相応の時間を要する相談もあり、1月末現在で**133件（約30%）が未完結**
- **本人・家族からの相談が約60%**。その他、相談支援機関など、様々な方から相談が寄せられている
- 高齢者や精神障害者がいる世帯への支援を求める相談が多い

①延べ相談受付件数とその受付方法

※「その他」は、ケース会議で相談を受けたものなど

	電話	来所	訪問	メール	その他	計
計	911	90	134	37	22	1,194

②新規相談者への支援状況

新規			完結				継続 (R6.1末)
			10月	11月	12月	1月	
新規	10月	144	103	8	0	0	33
	11月	94	-	57	8	0	29
	12月	99	-	-	62	0	37
	1月	96	-	-	-	62	34
	計	433	103	65	70	62	133

③新規相談者の内訳

区分	人数	割合
本人	156	36.0%
家族	101	23.3%
相談支援機関	48	11.1%
医療・介護機関	46	10.6%
行政機関	22	5.1%
民生委員	18	4.2%
その他	42	9.7%
合計	433	100%

④対象者の状況（主なもの）

※1事案で複数の状況に当てはまるケースあり

高齢	障害			疾病	経済的困窮		不登校・ひきこもり	子育て世代	外国籍
	精神	知的	身体		生保受給	生保以外			
206	94	26	26	51	49	61	16	9	10

福祉まるごとサポートセンターの相談事例

①年金で暮らしていける程度の物件に転居したい。 高齢 [相談者:本人]

- 居住支援協議会の相談窓口「すまいサポート千葉」と連携して対応。

②同居の子供夫婦との折合いが悪く、家に居づらい。 高齢 [相談者:本人]

- ご本人、地域との交流が希薄であったため、いきいきプラザの各事業を案内し、高齢者の集いなどで交流を持つことを提案。

③本人は精神障害により思い違い等が多く、年金等の手続きが滞っている。金銭管理ができず家賃等の滞納も。親は寝たきりで不十分な介護により褥瘡あり。子3人いるが服に異臭との話も。 [相談者:区役所]

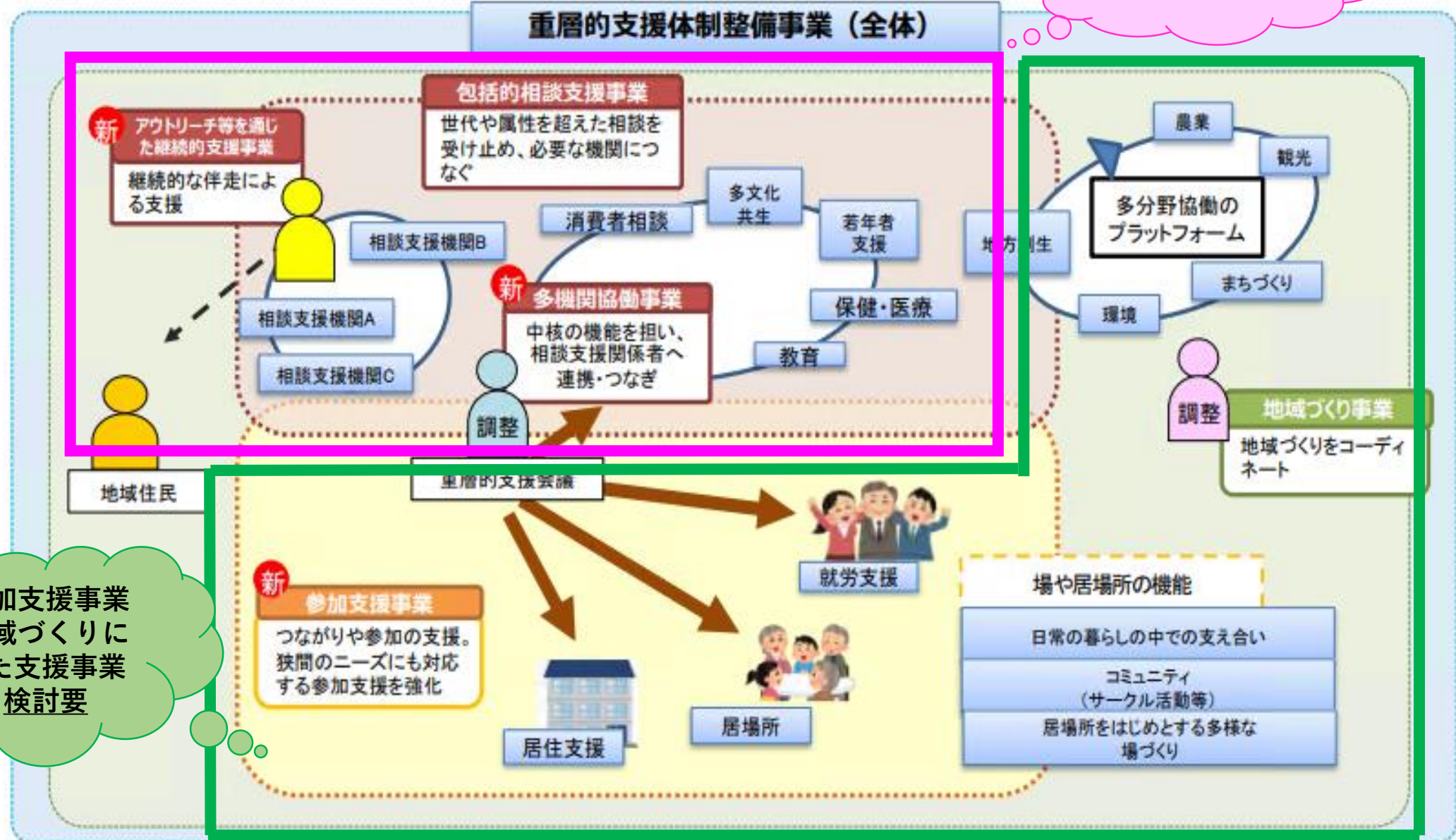
- 障害福祉の相談支援事業所、区保健福祉センター各課などと随時情報共有しながら、福まるでは、年金や生活保護、転入等の手続きに係る同行支援のほか、家財調達の支援、日常生活自立支援事業へのつなぎ等を実施。

④80代の親と60代の息子の二人暮らし。息子に精神疾患があり、ひきこもり状態。親が体調不良で買い物などに行けない時でも外出しない。通院もできていない。息子は「誰とも関わりたくない」と主張。 [相談者:民生委員]

- まずは親自身の困りごとへ対応する目的で対象者宅を定期的に訪問し、息子と顔を合わせる機会を作り、息子との信頼関係を構築した後に、通院の促しや本人の趣味を活かせるような場所探しを進めていく。

1 本市の体制構築 ～現状～

福まるで実施



- ① 参加支援事業
 - ② 地域づくりに向けた支援事業
- 検討要

1 本市の体制構築 ～全体スケジュール～

事業等		R5年度	R6年度	R7年度	R8年度		
重層的支援体制整備事業	① 相談支援	多機関協働	重層的支援体制整備事業への移行準備				
		包括的相談支援	開設準備 運用検討	【第1段階】多機関協働・包括的相談支援の実施 (福祉まるごとサポートセンターを開設し実施)			
			分野間（介護・障害・子ども・生活困窮）の連携による相談支援を継続			4分野の一体的実施	
		アウトリーチ支援	手法の検討	【第2段階】アウトリーチ支援の実施 (福祉まるごとサポートセンターで実施予定)			
	② 参加支援	手法の検討		【第3段階】参加支援の実施			
	③ 地域づくり支援	分野間（介護・障害・子ども・生活困窮）の連携による地域づくり支援を継続			4分野の一体的実施		
		手法の検討					
	重層的支援体制整備事業の全メニューの実施						

2 参加支援及び地域づくりに向けた支援事業の概要

(1) 背景

- ・生活課題の複雑化・複合化の背景には、社会的孤立など**関係性の貧困**があり、それが本人の**自己肯定感**や**自己有用感の低下**につながっていることが多い。
- ・社会の一員としての役割を果たすことで、自己肯定感や自己有用感を回復できる側面があるため、多様な社会参加に向けた支援が求められている。

(2) 実施主体

参加支援事業

市町村（委託は可）

地域づくりに向けた支援事業

市町村（委託は可）

(3) 支援対象者

参加支援事業

既存の各制度の社会参加に向けた支援では**対応できない個別性の高いニーズを有している者**。

地域づくりに向けた支援事業

各事業が対象とする高齢者・障害者・子育て中の親子・生活困窮者の居場所を確保した上で、**全ての地域住民**を対象とする。

2 参加支援及び地域づくりに向けた支援事業の概要（続き）

（４）事業内容

参加支援事業

既存の社会参加に向けた事業では対応できない狭間の個別ニーズに対応するため、本人やその世帯の支援ニーズと地域の社会資源との間を調整。

- ① **社会とのつながりを作る**ための支援。
- ② 本人のニーズを踏まえた**マッチング**やニーズに合った**支援メニューの開拓**。
(新たに作る、既存資源の幅を広げる)
- ③ 本人の**定着支援**と**受け入れ先の支援**。

※プラットフォーム …様々な分野の関係者が集い、関係性を深めるための場

地域づくりに向けた支援事業

介護、障害、子育て、生活困窮の分野ごとに行われている既存の地域づくりに向けた支援を一体的に実施することにより、属性に関わらず、全ての地域住民を対象としつつ、多様な地域活動が生まれやすい環境を整備。

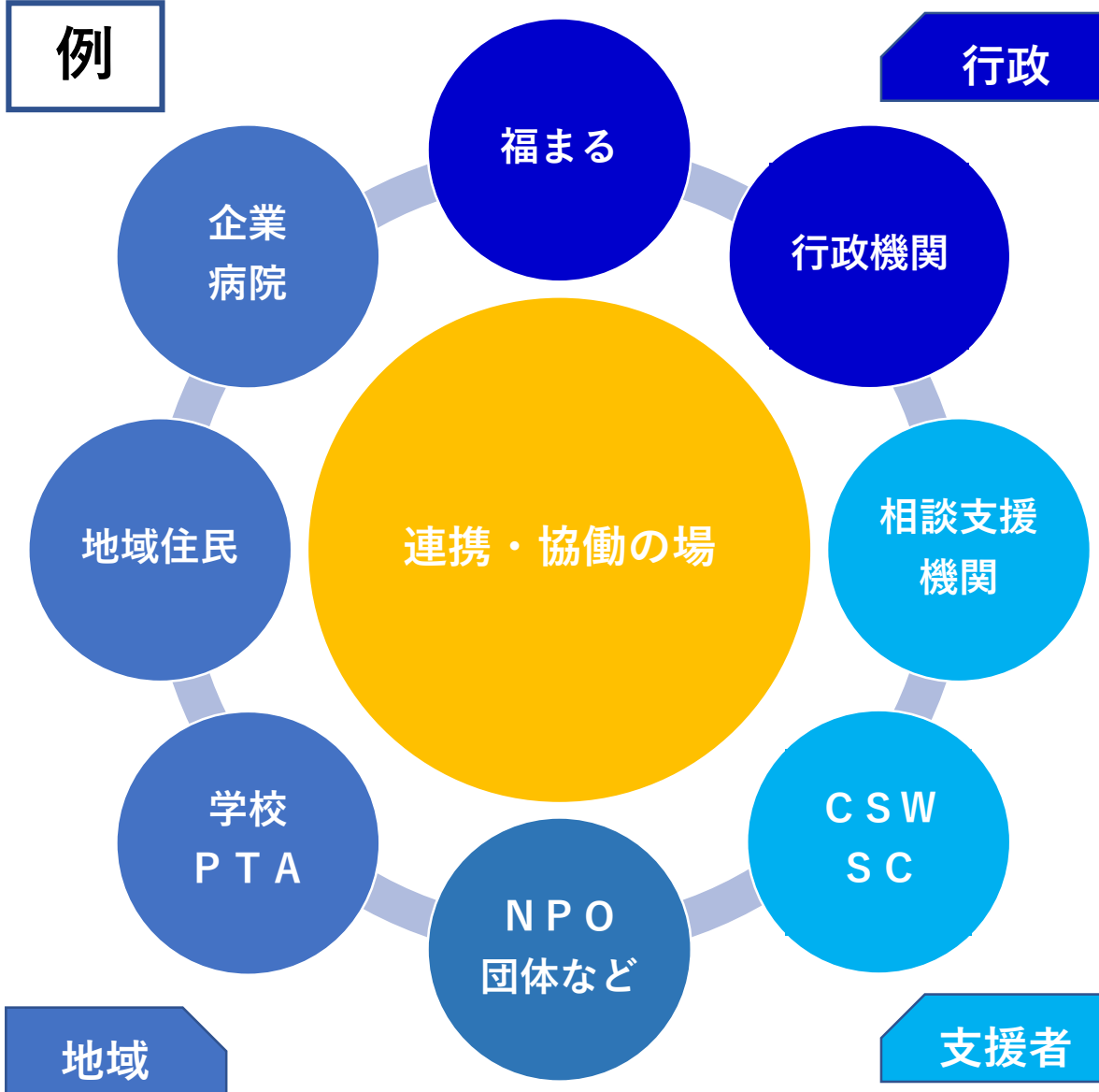
【参考】＜一体的実施の対象事業＞

ア 地域介護予防活動支援事業 イ 生活支援体制整備事業
ウ 地域活動支援センター事業 エ 地域子育て支援拠点事業
オ 生活困窮者支援等のための地域づくり事業

- ① **世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所を確保**。
- ② 交流・参加・学びの機会を生み出すために**個別の活動や人をコーディネート**。
- ③ 多様な地域づくりの担い手が出会い、学び合う**プラットフォームの形成**を通じて、**多様な地域活動が生まれやすい環境を整備**。

3 地域づくりに向けた支援事業

例



○ 連携・協働の場に期待される役割

- ・【現状把握】 地域資源マッピングの作成・更新
- ・【情報共有】 事例を持ち寄った情報共有会
- ・【意識啓発】 講師を招いた講演会、勉強会
- ・【資源開発】 新たな資源開発のアイデアや担い手募集

○ 参加支援と連携・協働の場の関係性は？

→ 連携・協働の場が機能すれば、参加支援事業である

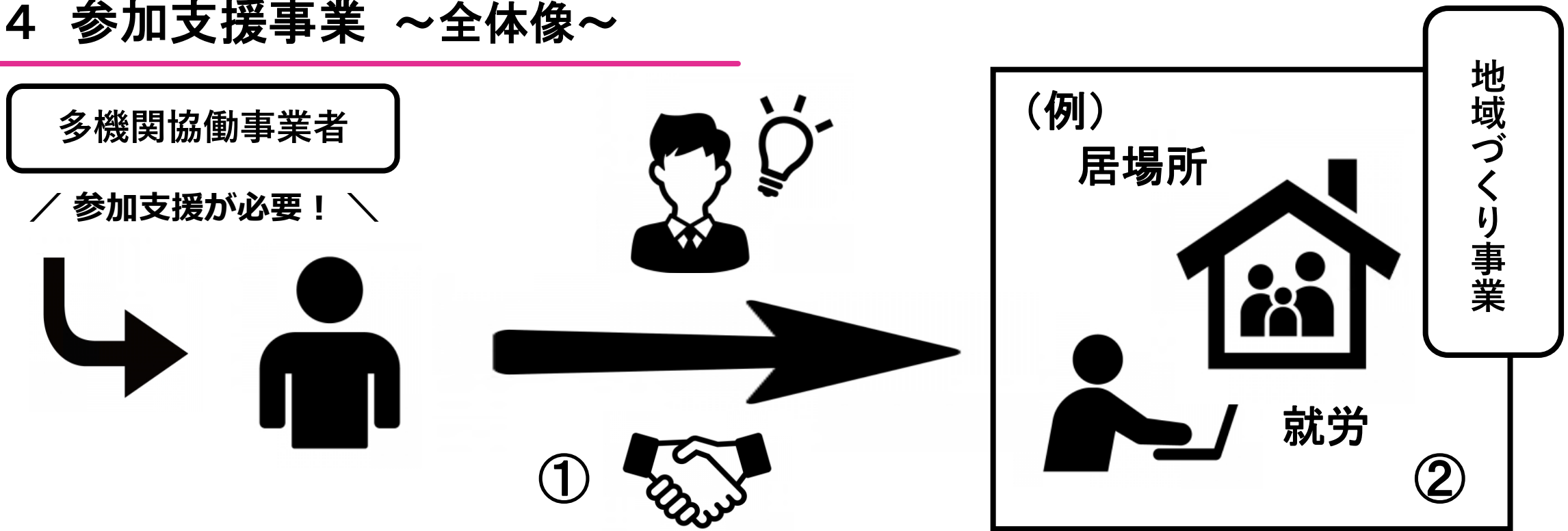
① 本人に適した地域資源との **マッチング**

② 新たな **資源開拓**

などのきっかけが生まれることが期待出来る

- ★ 各分野や事業における、既存のつながりや場などを活用出来ると効果的
- ★ 今まで関わりが薄かった分野の住民や支援者に参画してもらうことで、新しい取組が誕生するかも！

4 参加支援事業 ～全体像～



① マッチング

② 資源開拓

… 本人に適した既存資源がない場合

(ア) 新たにつくる (イ) 既存資源の幅を広げる といった手法が考えられる

★ 現時点では、掘り起こされるニーズ規模が不透明であることも踏まえ、
実施体制は既存制度を活用しつつ、ミニマムスタートを想定 ※ 経過に応じて体制見直しを図る

4 参加支援事業 ～相談支援事業・地域づくり支援事業との関連性～

- 参加支援は、地域の社会資源などを活用して、社会とのつながり作りに向けた支援を行うもので、「相談支援」と「地域づくり支援」とのそれぞれに重なる部分がある。

相談支援

- ① 包括的に相談を受け止め、課題を解きほぐし、利用可能な福祉サービス等の情報提供や専門支援機関への繋ぎ等を実施
- ② 複雑化・複合化した事例の調整役を担い、役割分担や支援の方向性を定め、支援プランを策定
- ③ 社会的に孤立している方など、支援が届いていない方への働きかけを実施

参加支援

本人への支援

- 支援の方針、内容等に関する意見調整
- 本人のニーズに沿った支援メニューとの
マッチング
- 本人の定着支援
- 受入先のフォロー

① マッチング

地域との調整

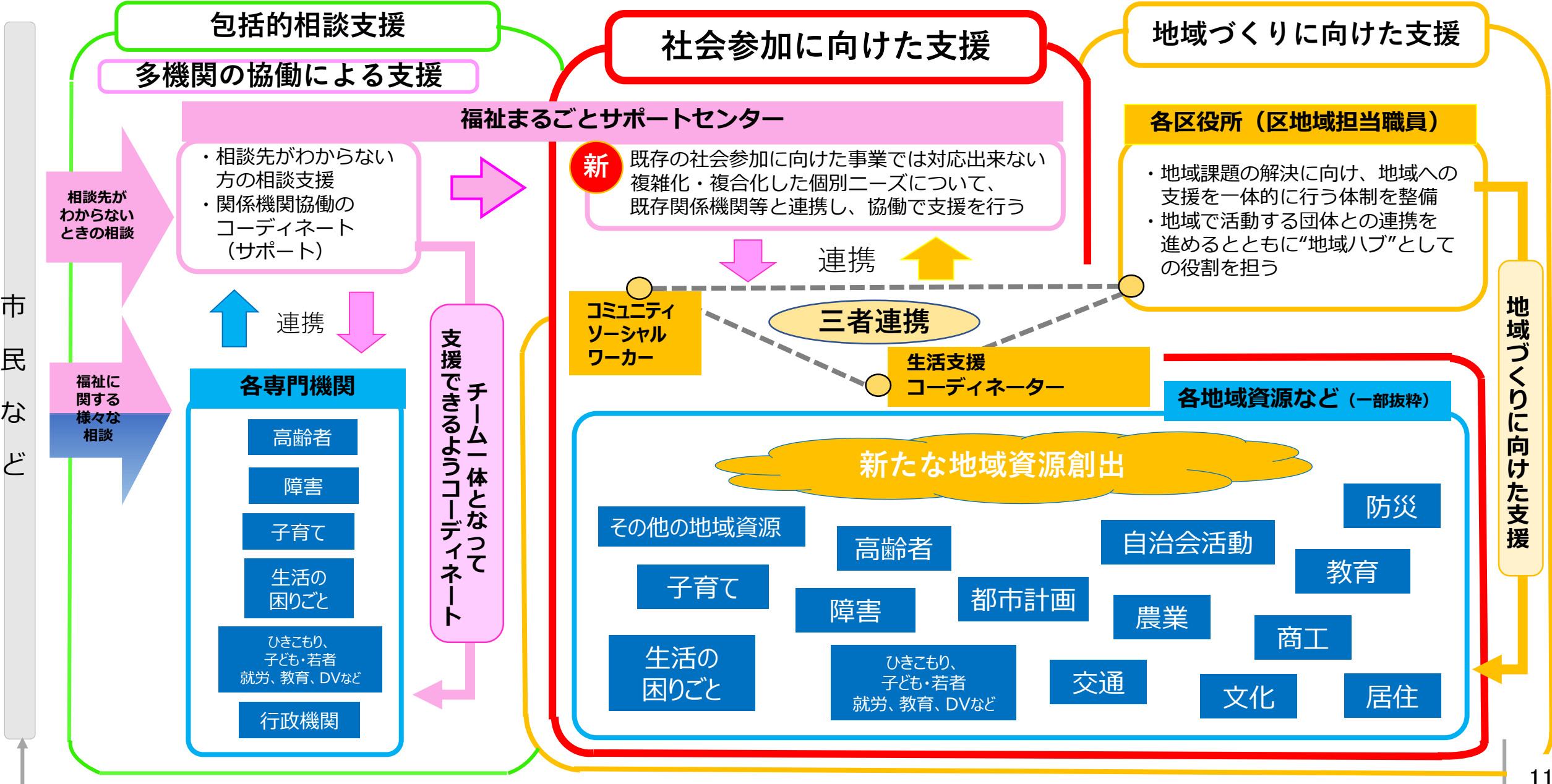
- 既存の社会資源に働きかけたり、拡充を図り、本人のニーズに合った
社会参加に向けた多様な支援メニューを作成

② 資源開拓

地域づくり支援

- ① 世代や属性を超えて住民同士が交流できる多様な場や居場所を確保
- ② 交流・参加・学びの機会を生み出すために個別の活動や人をコーディネート
- ③ 多様な地域づくりの担い手が出会い、学び合うプラットフォームの形成を通じて、多様な地域活動が生まれやすい環境を整備

5 本市の重層的・包括的支援体制（案）～全体～



5 本市の重層的・包括的支援体制（案）～社会参加に向けた支援の実施体制～

★ 実施体制 … **福まる** が、地域との調整役を担う **既存の関係機関**
（各区役所、CSW等）と連携し、協働で実施

— 福まるが担う意義は ??? —

① 包括的支援

- 【相談支援】
 - ・ 包括的相談支援 (R5～)
 - ・ 多機関協働 (R5～)
 - ・ アウトリーチ (R6～)

に加え、社会参加に向けた支援を実施することで繋ぐ先が見つからない複雑化・複合化した個別ケースについて
**入口（相談）から
出口（社会参加）まで
関わり続ける体制**を構築することが出来る。

② 情報の総合化

情報の集約

- 個別ニーズの把握
- 対応ノウハウの蓄積
- 地域資源情報の収集

→ 相談支援や社会参加に向けた支援を行うなかで、これらのデータを福まる1か所に集約することが出来る。

情報の共有

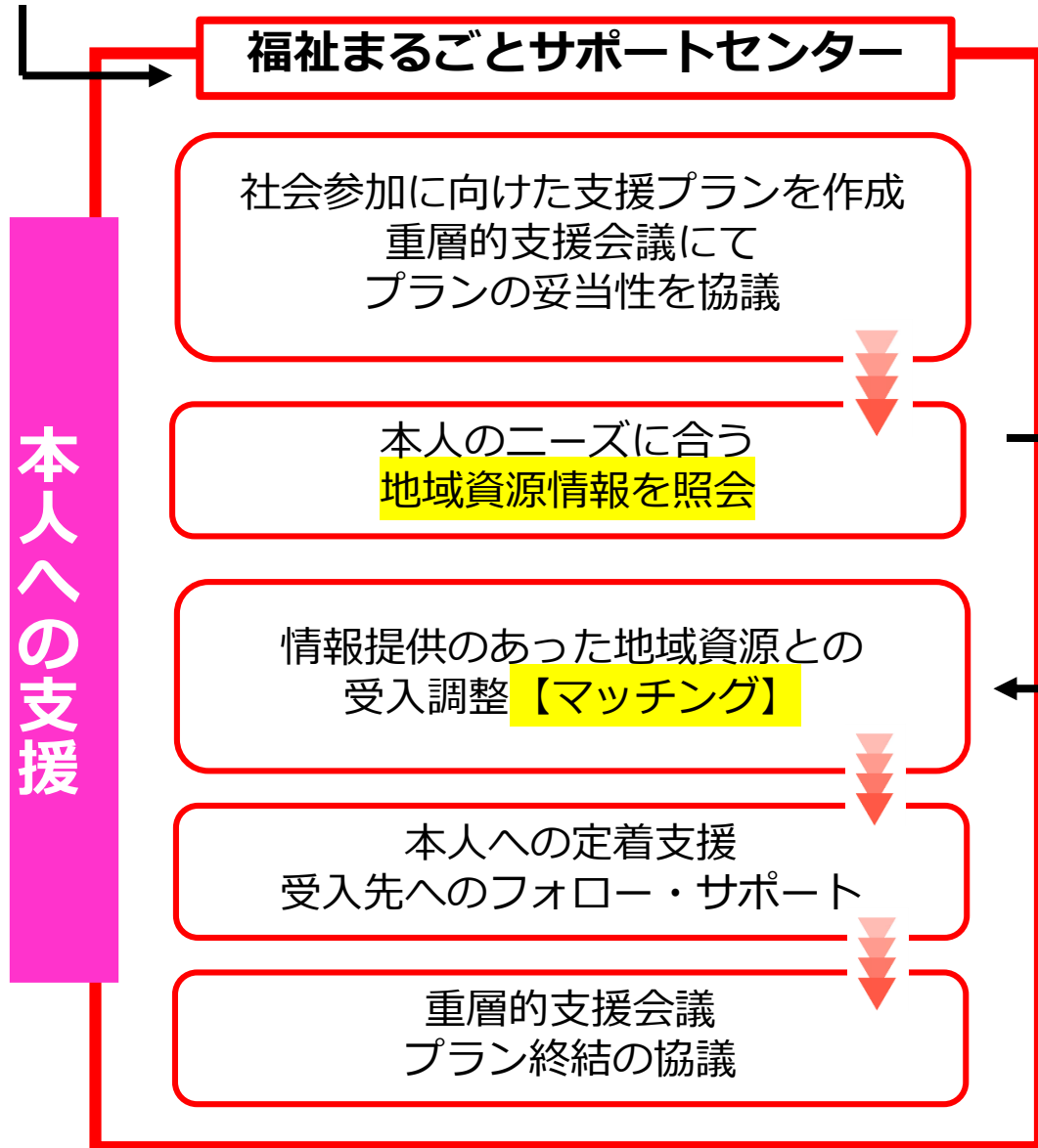
- 庁内関係課との調整
- 関係機関への情報共有
- 地域住民への働きかけ

→ 行政の関係部署間に横串を刺すとともに、各種施策への反映を促す。関係機関や地域住民へ情報共有することで、地域活動が活性化する可能性。

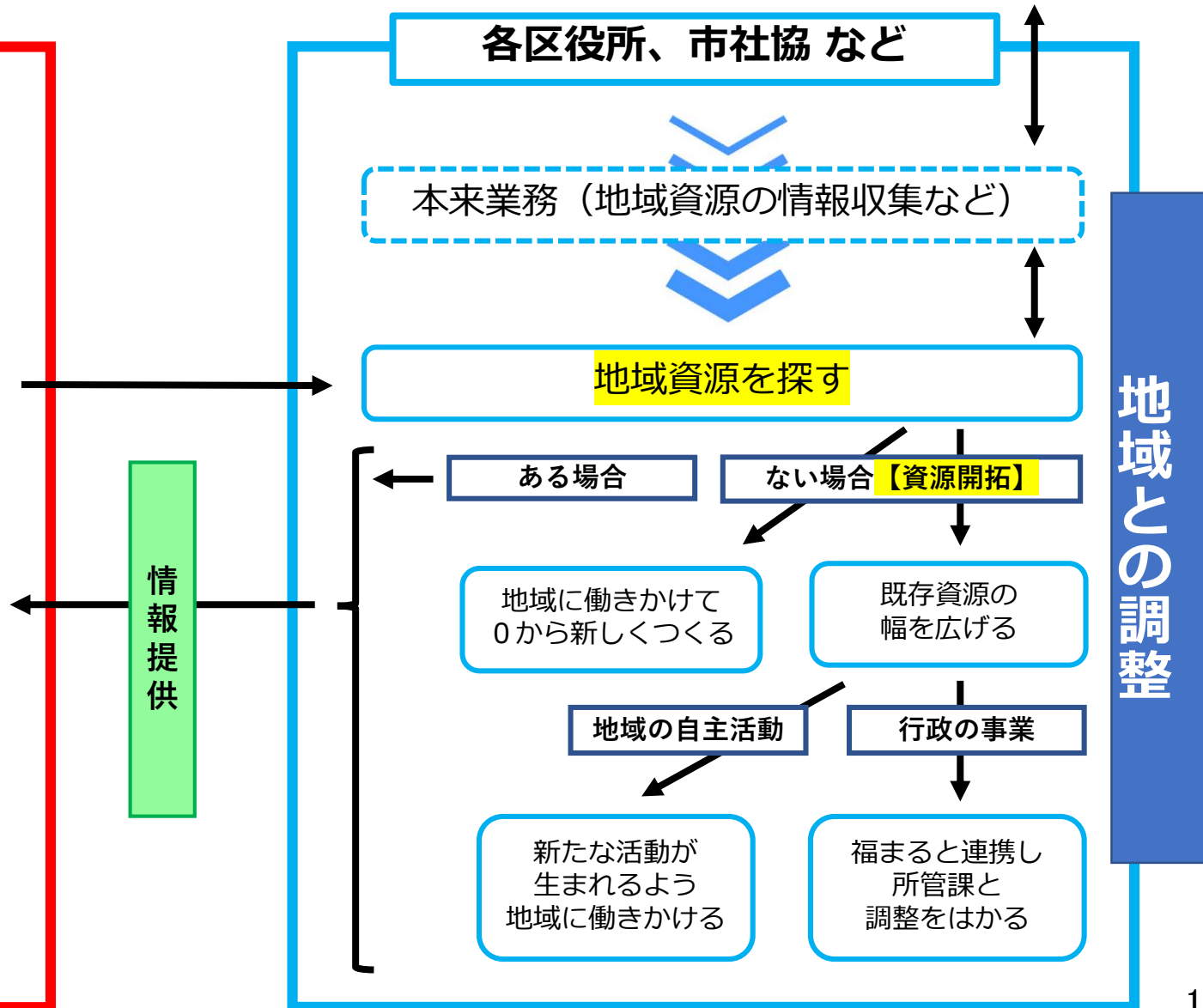


5 本市の重層的・包括的支援体制(案) ～社会参加に向けた支援の詳細フロー～

繋ぐ先が見つからない複雑化・複合化した個別ケース



地域づくりに向けた支援との連携



6 社会参加に向けた支援の体制構築スケジュール（予定）

年度	月	会議・検討項目	主な審議・検討事項
R5年度	2月19日	地域力向上班関係課長会議	支援体制の説明、意見交換
	3月29日	社福審地域福祉専門分科会	支援体制の説明、意見交換
R6年度	夏頃	社福審地域福祉専門分科会	支援体制の方向性の審議
	10月～ 年度末	令和7年度予算要望	

※ 地域づくりに向けた支援（4分野の一体的実施を含む）も必要に応じて、参加支援と併せて、検討